

お神札をおまつりし、清々しい気持ちで新年を迎えましょう——

家の中に神さまの存在を感じる

「祈りの場」のある暮らし。

神棚は、毎日の家族の健康と安らぎを祈り、感謝の気持ちを捧げる場所です。

日々神棚におまいりし、みずからを振り返ると、忙しい毎日を送るうちに失っていたこころの安らぎを取り戻し、自分のことばかりでなく、他を思いやるこころが育まれるのではないのでしょうか。

皆さんも、新年を迎えるにあたり、お伊勢さまと氏神さまのみずみずしい、大いなるご加護をいただき、家族の幸福と健康を祈りましょう。



お伊勢さま、氏神さまのお神札をご希望の方はご連絡下さい。



お伊勢さまと氏神さまのお神札をおまつりしましょう



なぜお伊勢さまと氏神さまをまつるの？

伊勢神宮は、日本全国にたくさんある神社の中で特別なお宮で、最も尊い天照大御神をおまつりしています。天照大御神は太陽の光のように、私たちの生命を守り、育んでくださる神さまです。

氏神さまは、地域の守り神として全国各地におまつりされている神社のことです。私たちが何世代にもわたって守ってきた家や土地、私たちが先祖から生命を受け継ぎ、その生命を養う食物や着るもの、住まいなどさまざまな恩恵を自然の中から得ています。そのめぐみに気付くとき、「生かされている」という実感をいただき、感謝のこころが芽生えることでしょう。

お伊勢さま、氏神さまのお神札をお家におまつりすることで、「生かされている」「感謝の気持ちを常に持つ」ことができます。

お伊勢さま、氏神さまに日々豊かな生活を送れることを感謝しましょう。そして日常の様々な時に、神棚に手を合わせ、みてはいかがでしょうか。

お神札の納め方



毎年お正月に新しくするって本当？

お正月にお神札を新しくすることで、神さまの更なるご加護がいただけます。

私たちは二年の始まりであるお正月を大切に迎えます。年末には大掃除をして一年間の汚れを取り、松飾りなどを飾って清々しい気持ちで元旦を迎えます。

古いお神札は、一年間無事に過ごせたことに感謝して氏神さまに納め、神社でお焚き上げいたします。

「不幸があった場合は…」

家庭に不幸があった場合は、忌中として故人を偲び、神棚に半紙を貼るなどして、おまつりを遠慮します。忌の期間が終われば、元の生活に戻るように、神棚も通常のおまつりしましょう。また、忌の期間が正月をはさむ場合は、忌が明けから氏神さまからのお神札を受け、神棚におまつりしましょう。尚、親戚の方が亡くなられた場合は、お葬式を出したお家でなければ、通常のおまつりをして構いません。

ご連絡はこちらまでお願い致します。

横浜熊野神社